

JTL

# 事業開始で出発式

## 4社社長、テープカット



トナミホールディングスなど特種3社の共同出資で設立された幹線便の運行会社、シャパン・トランス・ライン（JTL、坂田昭雄社長、東京都大田区）は3日、京浜トラックターミナル（同区）で事業開始に伴い出発式を行った。当面、関東・関西の6往復の運行業務を実施する。坂田社長は「夢を実現するために一つひとつ困難を乗り越えていきたい」と意気込みを語った。

（高橋 朋宏）

出発式では、共同出資したトナミHDの事業会社のトナミ運輸（綿貫勝介社長、富山県高岡市）、第一貨物

（武藤幸規社長、山形市）、久留米運送（二又茂明社長、福岡県久留米市）3社の社

長、二又社長  
ドライパーと記念撮影に  
臨む（前列右から）綿貫  
社長、坂田社長、武藤社  
長、二又社長

長らもそれぞれ出席し、事業開始を祝った。坂田氏は「当社は3事業者が大きな夢を持って設立された。関係者の多大な支援を得て今日を迎えることができた。これを第一歩とし、今後色々と実施していきたい。その夢を実現するためには困難があるだろうが、一つひとつ協議しながら進めていく。今後も3社

からの指導をよろしくお願  
いしたい」と挨拶。

出発式には出資会社3社の各社長らが出席し、テープカット。また、確保した専用車両12両のうち、6両がお披露目された。社長らに激励されたドライパーは大型トラックに乗り込み、ターミナル内を走行した。

軌道に乗り次第、増便して対応する。東京発の大阪向けは原則、午後9時から10時に2店所から荷物を積み込み、大阪到着後、2店所を下ろす。帰り便となる大阪から東京向けは原則1社の専用便として運用する。なお、出資3社では、JTLが業務を本格的に開始したのに伴い「お客さまへのサービス向上・拡大に向け、また3社の効率化実現に向け、何か共同で取り組むことのできる事業はないか、知恵を絞っていきたい」（第一貨物の武藤社長）としており、引き続き、共同事業の可能性を探っていく考えだ。